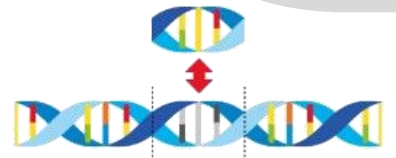


## いのちからの問い

## 宗教から問うゲノムテクノロジー



「ゲノム」は膨大な遺伝子情報のことで、体の特徴や機能を細胞レベルで決める人体の設計図です。いま人類はゲノムを解析し思い通りに操作し始めています。このまま進んでいくなれば、いのちの選別に繋がりがねません。

宗祖親鸞聖人が『教行信証』総序に書かれる「穢<sup>え</sup>を捨て浄<sup>じょう</sup>を欣<sup>ねが</sup>い」は、「穢」(悪、劣ったもの、病、暗さなど)を嫌い捨てようとし、「浄」(善、優れる、健康、光、明るさなど)をねがい求める私たちの日常の感覚であり、それはやまゆり園事件の「役に立たないものは不幸を生むから殺す」考えと地続きです。またハンセン病問題に潜む優生思想も同じだといえます。その善<sup>よ</sup>し悪<sup>あ</sup>しを打ち破<sup>やぶ</sup>ってくるのが念仏です。ところが、私たちは善<sup>よ</sup>しを求め、勧め、喜びとし、生きる意味を感じている。なにかがでる自分を生きている。なにかをできる人を求める。そして、悪<sup>あ</sup>しを嫌<sup>きら</sup>う。

2020年12月にノーベル賞を受賞した「クリスパー・キャス<sup>9</sup>」は狙ったゲノムの場所を簡単に改変できるというゲノム編集の可能性を広げた技術です。2030年、ゲノム解析のコストは限りなくゼロに近づくと試算され、人類は地球上のあらゆる生命の遺伝情報を手に入れることが可能になる。その先に、どんな未来が待っているのか。その時私たちは、病ではなく健康を、劣ったものと優れるものを「人間の付加価値」で決めて選び取っていくのでしょうか。

本年度の差別問題研修会は、新型コロナ感染拡大防止のため半日の日程でWEB(Zoom)開催します。講師に島藺進氏をお招きし、その後、佐野明弘氏と対談していただきます。

- 期 日 2022年5月26日(木) 13:30 から 16:30 【13:00 入場可】
- 会 場 小松教務所 (小松市小馬出町 26) または WEB (Zoom)
- 日 程 13:30 開会 / 13:50 講義 / 休憩 / 14:50 対談 / 休憩 / 15:50 質疑応答 / 16:30 閉会
- 講 師 【講義】島藺<sup>しまぞの すすむ</sup>進<sup>すすむ</sup>氏〔宗教学者、ゲノム問題検討会議代表、東京大学名誉教授〕  
【対談】島藺<sup>しまぞの</sup>進<sup>すすむ</sup>氏・佐野<sup>さの あきひろ</sup>明弘<sup>あきひろ</sup>氏〔同朋会館教導、真宗大谷派僧侶〕
- 申込方法 5月23日(月)までに、右記 申込用 QR コード からお申し込み  
いただくか、小松教務所まで下記3項目をご連絡ください。  
< ①氏名 ②寺院・教会名 ③メールまたは電話番号 >
- 参加費 1,000円 ※ 開催日までに小松教務所にご持参ください。
- 備 考 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、Web  
(Zoom)のみとなる場合がありますことをご了承ください。
- 申 込 先 小松教務所 電話 0761-22-0555 / E-mail komatsu@higashihonganji.or.jp



申込用QRコード  
(小松教区用)

- 問合せ先 金沢教務所 電話 076-265-5191
- 当 番 金沢教区解放運動推進委員会

## ◆「ゲノム」について

ゲノムは、身体を作るための遺伝子情報のこと。ヒトの細胞数は三七兆個あり、身体を作るためのタンパク質に関する情報（遺伝情報）が書き込まれている。ヒト遺伝子情報は三万個程度。

※【テクノロジー】＝科学技術。広い意味で「技術全般のこと」

【科学技術】＝理科学的な知識を使って生活を役立たせるもの。

今、人類は膨大なゲノムを解析し、思い通りに操作し始めています。その技術は新型コロナウイルスや治療薬の開発にも利用され、パンデミックに立ち向かう重要な武器になっています。また、がんをはじめとする重い病の克服や、食糧危機といった地球規模の課題解決に大きな期待がかかっています。

二〇三〇年には地球上のあらゆる生命の遺伝子情報を手に入れることが可能になると言われています。人間があらゆる生命を自在に操作できるようになったその先に、何が待ち受けているのでしょうか。

人類の欲望に歯止めがかからず、誰よりも美しく、能力の高い、思い通りの子どもを生みだすデザイナーベビー（設計された赤ちゃん）が誕生するかもしれません。人間の価値がゲノム情報をもとに判断され、優れた遺伝子をもつ者と、そうでない者の格差が広がり続ける社会が目の前にやってこようとしているのです。

## ◆「クリスパー・キャス9（ナイン）」とは？

二〇二〇年一二月にノーベル賞を受賞した、ジェニファー・ダウドナ博士とエマニュエル・シャルパンティエ博士が発見した画期的な技術のこと。チーズやヨーグルトに含まれる乳酸菌などもつ特殊なタンパク質を細胞の中に注入することによって、思い通りにゲノムの配列を変えられることができる。

## ◆ユネスコ国際生命倫理委員会議長

### エルヴェ・シュネイヴェス氏の言葉

「テクノロジーの進化があまりにも早いいため、人々の理解がおいついていません。このような強力な技術を議論もなまま使うのは非常に危険。私たちは、もはやテクノロジーの単なる消費者ではいられません」二〇三〇年に何がおきるかは、私たち自身にかかっています。私たちは驚くべき可能性と同時に、とてつもなく大きな責任も背負っているのです」

## ◆島菌進氏の言葉

「命というのは授かるものだったわけです。結婚したら子どもを作ると言うけれども、作ろうと思っても作れるもんじゃないので…授かる。どういう子どもかというのは分からない。思ったような子どもじゃない、これは育てていてもそうならぬのですが、思ったような子どもを作るといふ、そういうことをし始めるということですね。これは命の選別と言ったりしますけど、そういうことが起こるといふのは、命を作ることになる。作る命は壊せるんですよ、モノに近づいてくる。命の尊さの基本感覚というものが怪しくなってくる可能性がないでしょうかね」

## NHKスペシャル 2030 未来への分岐点（4）

「『神の領域、への挑戦～ゲノムテクノロジーの光と影～』参照

（2021年6月6日放送） ※詳細はこちらをご覧ください→

関連書籍：「2030 未来への分岐点2 テクノロジーは神か悪魔か」（NHK 出版 2021.11）



番組QRコード 番組ブログ(内容)